

第3回二宮町総合教育会議 会議録

開催日時	令和3年1月22日 金曜日 13時30分から15時00分まで
開催場所	役場第一委員会室
出席者	村田邦子町長、森英夫教育長、山内みどり教育長職務代理者、渡辺優子教育委員、野谷悦教育委員
町部局	政策担当部長
教育委員会	教育部長、教育総務課長、生涯学習課長、教育総務課長代理、教育総務班長
その他	傍聴 6人

※会議次第および資料は、別添ファイルのとおり

会議記録

1 教育部長

開会にあたり、司会（教育部長）より会議の公開を諮る。

2 町長あいさつ

今年度最後の総合教育会議になります。今回は新型コロナウイルス対策の状況と次年度に向けての対応、また小中一貫教育について教育委員の皆様と意見交換をさせていただきたいと考えています。本日はよろしく申し上げます。

3 協議・調整事項

（町長）

それでは協議・調整事項に入りたいと思います。この間、国の交付金などを活用してソフト面・ハード面で様々な整備を進めており、対策を進めてきたと思います。まずは担当の方からの説明をし、来年度に向けても意見交換をさせていただきたいと思います。

—教育総務課長から資料説明—

（町長）

備品など学校の環境整備のハード面の部分と行事や通常の学校生活などのソフト面の二つのポイントがあったと思いますが、今の事務局の説明を受けて、教育委員の皆様から何か意見はありますか。

(野谷委員)

今年度について考えてみれば年度初めには既に学校が休校だったわけですから、6月からの学校再開や分散登校、祝祭日のことを考えておおよそ6週間程度の授業ができなかったと考えています。これまで夏休みを短縮し、給食の実施回数を増やすことで授業時数を確保してきましたが、今年度についてはそれでも私の試算では通常の今の時期に進めるべきものに対して8~9割程度のカリキュラムしか達成できていないというのが実情ではないかなと思います。学校へ訪問した際には気にしているのですが、経験のある先生はそつなく授業をこなしているという印象ですが、比較的若い先生の中には思うようにカリキュラムが進んでいない方もいるようで心配な方もいます。私自身は現在、授業についていけない子の勉強をみているのですが、正直なところ勉強ができる子は多少、授業ができなかったとしてもそんなに心配はないのですが、授業についていけない子については話が違います。学校休業の影響があるかといわれれば、特にそういう子たちにとっては確実に影響を及ぼしてしまっていると言わざるを得ませんし、そういったことがあるということを私たちも心に留めておく必要があると思います。

(町長)

授業についていけない子へのフォローというのは、通常時でも各学校でそれぞれ対応をされているところだと思いますが、私も特にコロナ禍においてはその部分はより手厚くするべきだと考えています。そういう意味では町としても補習等への予算を確保させていただいていたと思いますが、各校での対応状況はどうでしょうか。

(教育部長)

いただいた予算については各学校でそれぞれ使い方にも違いがあります。例えば一色小学校では「学び場」という予算を活用して放課後の補習等を地域の方に見ていただくという取り組みをしていますし、二宮中学校でも同様の取り組

みをしています。取り組めていない学校もあるのですが、主に人材確保の点で課題があるようですが、各学校での補習等も取り入れながら、フォローをしているところです。

(町長)

コミュニティ・スクールでも人材発掘などもしていますから、そのような仕組みも最大限活用して、取り組んでいただきたいと思います。先日、私も一色小学校の「学び場」を見学させていただきましたが、その時は4名の子どもたちがいました。宿題をしたり、子ども同士でクイズを出し合ったりして子どもたち自身もその場を活用していた、という印象でした。やり方は色々な形があって良いと思いますし、実際にその場を見て感じたことは子どもたちにとってこのような機会があるのはとても良いことだと実感しました。

(教育総務課長)

放課後という点でいえば、今、話にでた一色小学校と二宮中学校が取り組んではいましたが、そのこと以外にも例えば二宮西中学校では日中に校内に学習相談室のようなものをつくって、県の加配で来てもらっている学習指導員の方に協力してもらいながら、また地域の方の協力も仰ぎながら、コミュニティ・スクールにつけていただいた予算をそこに充てたりといったことで放課後という時間に囚われずに取り組んでいる学校もあります。

(町長)

確かに放課後というスタイルに囚われずに、様々なやり方を模索しながら、また皆様からも良い案があれば教えていただければと考えています。

(野谷委員)

私が学校にいた頃は、補習というと放課後にやるという考えが常識でしたが、今は常識の囚われず、色々と工夫をするべきだと思いますし、賛成です。また、今年度は特に国からの予算で学校にも新たな人材が来ていますが、今後も国や県に対して、引き続き人材のための予算措置について要望をさせていただきたいと考えています。私がいつも言っていることですが、二宮町の良いところは特に支援教育補助員の配置が手厚いということだと思います。手厚い配

置をすることでの成果という点ではなかなか見えにくい部分があるとは思いますが、とても重要な部分であることから引き続き必要な予算を確保していただきたいと考えています。

(町長)

来年度予算についても町としては引き続き、予算確保をしていきたいと考えています。他に大きな点でいえば ICT 関連で児童生徒一人一台の環境が今年の 3 月から始まり、4 月からは授業でも活用されていくことになると思うのですが、先生方の研修などもこの間、進めてきていただいたと思うのですが状況はいかがでしょうか？

(教委総務課課長代理)

現在、教職員の研修計画についても進めているところです。学校現場もまとまった研修時間がとりにくいという状況の中で放課後の 20 分程度の時間を使って 10 回程度に分けて順次、実施をしていきたいと考えています。既に配置をしている ICT 支援員の方に講師をお願いして、進めていきたいと考えています。

(教育長)

今の課長代理の説明は、授業での活用についての話になります。一方で教員の働き方改革の点で昨年度は校務支援システムを導入しており、1/7 には全教員を対象とした ICT に関連したオンライン研修を実施しました。その中で ZOOM の使い方についても ZOOM の会議の中でさらにグループごとに分けて会議ができる機能なども活用したりしました。このようなことも今後、授業の中で活用できる部分ではないかと思えます。

(町長)

今、まさに現場の先生方への研修を進めているところであるとの説明でしたが、4 月以降も先生方への研修を継続していくことになると思います。何が正解というものは無いと思いますが、今後の授業での活用についても私自身も学校を訪問させていただき、授業の様子なども確認させていただけたらと考えています。

(渡辺委員)

タブレットについては、今年度の学校訪問などを通じて感じたことは小学校よりも中学校の方が活用は進んでいるな、という印象です。例えば、授業では黒板がわりに活用していたり、体育の授業では写真や動画を撮影していたりという使い方をしていました。また今年度はコロナの影響もあり、学校の休業による授業の遅れを取り戻すということが優先されてきたと思います。先ほど 8～9割まで取り戻してきたとの話がありましたが、今年度中に 10 割に戻すという考えは少し危険かなと思いますので、来年度も引き続きという考えで確実に取り組んでいただきたいと思います。今年度は県予算で先生が増えたり、国の交付金の予算がありました。特に先生が増えたことで子どもへの配慮という部分は手厚くできているのかなと思いますし、来年度も引き続き維持していただきたいと思います。また ICT についてですが、一人一台のタブレットが整備されて、先生方の研修も行われて 4 月を迎えることになるのですが、またいつ学校が休業するかもわからない状況です。今年度は環境整備や、また先生方の意識もだいぶ変わっているのではないかと思います。オンライン授業や朝の会など、学校休業時の対応についても検討していただく必要があるのではないかと思います。

(町長)

タブレットなども今回、折角、導入をされるわけですから、このような新しいものの有効活用を是非、考えていただきたいと思いますし、これからの時代には必要なことだと思います。

(山内委員)

今年度は運動会や文化祭など、本来、私たちが学校へ伺う機会がほとんどない中で学校の様子を見守りつつ、今に至ります。With コロナの時代で第一波が来た時には緊縮感がありました。その後、学校が再開されて少し状況が持ち直してきたところで、再び今回の外出自粛期になっています。ですが今年度は特に激動の中で教育委員会や学校は様々なことに速やかに対応をされているという印象を持っています。

春の緊急事態宣言があり、宣言明けには各ご家庭でも学校の段階的な再開への対応など様々な混乱があったと思いますし、楽しみにしていた学校のイベントの中止や縮小の中で子どもたちも寂しい思いをしていると思います。しかし、

子どもたちはしっかりと現実を受け止めて、様々なことに前向きに取り組んでいるように感じます。

今年度は学校も教育委員会も多忙を極めてきましたが、県からの加配を迅速に希望したことで学校へ人材が投入され、心強いサポートだったと思います。今後も人材を手厚くしていただけると良いと思いますし、それが子どもたちや保護者の方の安心に繋がり、二宮町の教育の魅力にもつながっていくのではないかと思います。

(町長)

職員の多忙という点では、これは雇用する側からすれば決して褒められたことではないと思います。年度当初の時期は新しい ICT の導入があり、またコロナ対応で忙しい状況でした。今後、こちらも体制のあり方を含めて、しっかりと考えていかなければならないところだと思います。ICT などの新しいものの導入については、教員の研修等をしっかりと進めていただき、子どもたちにプラスになるように進めていただきたいと思います。一方で今年度の学校行事についてですが、年度当初の学校行事については学校休業中ということもあり、中止でしたが、学校再開後もコロナ禍において運動会や文化祭、音楽祭などについても中止や通常どおりの開催ができない状況が続いています。修学旅行についても各学校で代替えのものを検討していると聞いています。私自身も今年度の中では通常どおりの実施は難しいと思います。次年度以降もこの状況が急になくなるとは考えにくい状況の中で学校行事についても子どもたちへの教育的目的があって実施をしている重要なものだと思いますので、新しい生活様式に沿った行事のあり方というものを検討していただきたいと思います。通常通りの行事を予定しておくというよりは、これまでのものを根本から変えていく必要がある時期に来ているのではないかと思います。

(渡辺委員)

午前中の教育委員会の定例会の際も学校の行事については話題になりましたが、学校もあらゆることを考えて学校行事の実施の可否、またやり方を判断しています。今年度当初の学校休業時にはすべてがストップしてしまいました。コロナがいつ収束するかわからない状況の中では危険だからやらないということだけではない発想の転換が必要ではないかと思います。昨年の秋に山西小学校の

校長先生と話しをする機会があったのですが、その時期には学校でも運動会や遠足をどうしようかということで大変悩んでいたと聞いています。やらない、という判断をすることがある意味では一番楽なことではある一方で、学校の先生はどうやったらできるのかという方向で考えているということをお聞きしました。日々の検温を各家庭でしっかりとやっていただくこと、また子どもの健康状態を学校もきちんと把握していく中で運動会の開催時期や遠足の行先などを決めて、実際にやりました。もし何かがあれば、その責任ということもあったと思いますが、例えば1年生の児童をバスで藤沢まで連れて行った時の子どもたちの輝いた顔を見たときに、教師として頑張ってやって良かった、ということをお聞きしました。そういう教育に携わる大人が子どもに寄り添って頑張っているところを教育委員会としても支えてやっていかないと、危ないから何もやらないということではなく、厳しい状況の中でもどうやったらできるのかという姿勢を持つことが大切なことなのかなと思います。

(町長)

コロナ禍の中で町内の学校でも行事が中止になったり、規模が縮小されたりする中で、実体験の場や機会というものが少なくなっているのが現状だと思います。人間として直接その場所に行ってみたい、実体験をしたいという欲求は子どもに限らず持っているものだと思います。コロナ感染の心配が無くなれば、いままで通りのやり方で、ということも当然ありだと思いますが、その見通しが見えない状況であれば、例えば一案としてオンラインの活用といったことも含めて考えていくべきなのかなと思います。

(渡辺委員)

同様のことで、最近では町の成人式を中止にしたということがありました。中止をする際には実行委員会と町側で話し合いをして決めたということがありました。決断をする際に町側だけではなく、当事者とも話をするという姿勢は大切なことだと思います。学校の修学旅行についても現時点で日光については中止になりましたが、代わりに何をするかという点においては例えばまずは各クラスで子どもたちの意見を聞き、その上で先生どうしのシビアな話し合いといったように、当事者である子どもたちに寄り添ったやり方というものを大切にしていこうかだと思いますし、今後も問われ続けることだと思います。

(町長)

先生だけではなく、子どもたちもコロナ禍で様々なことについて考えているのだろうと思いますし、みんなで一緒に考えていくということについては本当に大切なことだし、その通りであるべきだと思います。宿泊旅行が難しい状況の中で学校では日帰り旅行についても検討をしていると聞いています。現在、町では数日おきに感染者がでており、感染経路が追えないという厳しい状況も出てきています。難しいことではあると思いますが、そのような状況下でいままで通りのことをすることだけがすべてではないと思いますし、やはり安全性というものを第一にあらゆる可能性を考えて進めていっていただきたいと考えています。それでは二つ目の小中一貫教育について意見交換をしたいと思います。

—教育部長から現在の小中一貫教育についての現状について説明—

(町長)

今年度は教育委員の皆様で勉強会をされていると伺っています。これまで地域の方との意見交換会を開催したり、学校でも研究を行ったりしてきましたが、今年度はコロナによる学校休業もあり、進んでいないという状況だと聞いています。施設一体型の小中一貫校については、まだ様々に検討すべき課題はあるものの、まずは施設分離型の小中一貫校について進めていこうというスタンスであるという認識ですが、教育委員会の現在の取組みや今後の展望について教えてください。

(教育長)

今年度になって教育アドバイザーとして元川崎市立川崎小学校の校長をされていた吉新先生に山西小学校を中心に子どもたちを一人も取り残さないというスローガンのもとに教科毎にワーキングを立ち上げて9年間のカリキュラム研究を進めているところです。この中では文部科学省の新学習指導要領の考え方である「主体的対話的で深い学びの実現」という対話的というところに焦点を当て、誰も取り残されない、周りで支えあうということを念頭に今年度から研究員として勤務していただいている清水先生を中心に進めています。

(町長)

まずは施設分離型の小中一貫校ということで、物理的な距離がある中でどのようなカリキュラムが作られていくのかということ、そしてどのような成果が生まれてくるのかということについて研究をされているのだと思いますが、例えば、今現在も小中学校間での乗り入れ授業というものをされているかと思いますが、ICTを使ってオンラインでつながればわざわざ先生が学校間を移動しなくても良くなるのではないかと思います。

(野谷委員)

小中一貫教育については施設一体型を目指すべきだと思いますが大きく3つのポイントがあると思います。一つ目はどこの学校をなくすということになった場合にこれは地域にとっても大変なことだし、難しいことだと意見交換会を通じて痛切に感じました。これを解決するには相当な時間がかかると思いますし、そのことから小学校区についてはしばらくの間は現状を維持していくことになるのかなと思います。二つ目はこの状況が続いていくと小学校によっては小規模校化が一段と進んでいきます。これはイコール中学校の小規模校化にもつながることにもなります。これの意味するところは中学校については教科担任制になっており、教科毎に専門の先生がいますが、規模が小さくなると教員も自分の専門教科だけやっていたら良いという状況ではなくなり、臨時免許という形で担当教科外の教科も教えなければならなくなります。そうすると中学校の特性も失われていきますし、部活動も部数が少なくなるなどの負の影響がでてくることになります。そうすると本来の趣旨からは外れることになりますが、現在の小学校区を維持をしつつ、中学校を統合するという選択肢もでてきます。三つ目は一色小学校の単級問題です。ただ、これについては一長一短だと思います。

小人数の中で牧歌的にやっていくことに対しては魅力がある一方で何か問題が出た際にクラス替えという選択肢がないということは状況をより難しくする場合があります。端的に言えば学級崩壊が起こった場合にいくら力のある教員でも状況を好転させることが難しいということです。単級問題に対しては学区編成をせずに対応するということが極めて難しいと思います。私も学区の自由化や町内全域から希望者を受け入れる特任校制度を活用するといった方法を検討はしてみました。最終的には学校への人的な配慮という点がとても重要なことだという思いに至りました。人を配置するということが大変な経費が必要と

なります。二宮町の財政状況ではなかなか難しいとは思いますが、あえて言えば単級を2学級以上にするなどの対応ができれば良いのですが、そこまではいなくてもまずは単級の円滑なクラス運営という視点で人的な配慮ができないか検討をする必要があると思います。今回、吉新先生が二宮町の小中一貫教育の教育アドバイザーとして携わっていただいているのですが、この取組みの素晴らしいところは小中学校の両校種に渡って、一人の先生が見ていただけるということで9年間のカリキュラム研究においても、小中学校で良い歩み寄りができるのではないかと期待しています。

(町長)

今、話を伺った一色小学校の単級問題への対応については、検討を進めていただきたいと思います。また検討をする一方で小中一貫教育を進めていくことは様々な課題を解決していかなければことだと思えますし、施設一体型の小中一貫校を作るには時間がかかることだと思えます。地域の方の理解などやろうとしてすぐにできることではないことから、今の内から理解をしていただきやすいところから分離型の小中一貫教育を丁寧に保護者の方、地域の方に説明をして、実際にやるという時期にきているのではないかと思います。

(教育長)

野谷委員が言われた学区の自由化についてですが、大きく5つの制度があるといわれています。一つ目は世田谷区などで実施している区内全域で希望する学校を選べる自由選択性、二つ目は町内をブロックに分けてその中で希望する学校の就学を認めるブロック選択制、三つ目従来の学区は残したままで隣接する区域内の希望する学校への就学を認める隣接区域選択制、4つ目は従来の学区は残したままで特定の学校について通学区域に関係なく就学を認める特認校制、5つ目は従来の学区を残したままで、特定の地域の居住者について学校選択を認める特定地域選択制です。今、現在問題になっているのは一色小学校の単級ですが、将来、山西小学校も単級になる見込みです。仮に遠い将来にこの二つの学校を統合するのであれば、令和3年度ないし4年度までに地域の方へ説明をし・理解をいただいた上でこの二つの学区内の隣接地域に対して隣接区域選択制の導入を検討しても良いのではないかと思います。私自身は当初、町全域から一色小学校への就学を認める特認校制度について考えていたのですが、その

場合、通学の問題がありました。保護者の方に送迎をお願いする、バス通学をするということが必要になることから、これについては相当ハードルが高いという考えに至りました。このような経緯を踏まえて一色小学校、山西小学校へのそれぞれの隣接地域に住んでいる方に対して選択制を導入することについて、スケジュールをきちんと示して、保護者や地域の方の理解をいただけるよう提案をしていけたらと考えています。

(渡辺委員)

教育委員どうしても何度も小中一貫教育については勉強会をしてきました。一色小学校の単級問題については、教育委員の総意として1学年に少人数の複数学級を設置して、特色を持たせた学校づくりということが理想的な形であるとの結論には至りましたが、現実問題として、やはり町の財政事情という課題に行き当たりました。ただ、財政が厳しいからやらないということではなく、今の一色小学校の課題は将来の山西小学校への課題にもなります。また学校毎に特色を出していくということは大切なことですし、これを限られた予算の中でも進めていき、学校が発信をしていくということ、今、意見がでた隣接区域選択制の導入をしていくことは、長期的な視点で良い方向に向かって取組んでいくという意味において二宮町の小中一貫教育を前に進めていくには必要なことだと思います。今年度になって、私の周辺からでも小中一貫教育の話は止まってしまっているのか？といったことを聞かれますが、これまでは5校ある学校をどうしていくか、カリキュラムをどう作っていくのかということが主題であったと思います。今年度はコロナ禍にあっても、清水先生と吉新先生を中心に実際に学校の中に入って、学校の授業をどう変えていくのか、小中の連携をどう進めていくのかといったことを目的に先生のマインドをどう変えていくのかということにおいては良い取組みができてきているのかなと思います。今年度、町が予算を付けてこのような取組みが進んできたわけですから、やはり町の財政的な支援というものは継続的に必要なものだと思います。

(町長)

教育委員会で小中一貫教育について様々な勉強や研究をされていることは承知していましたが、私自身はなかなか細かいところまで意見を把握してはいない状況でしたので是非、別に時間を取って私自身も理解を深めていきたいと思

ます。一方で先ほどもお伝えしたとおり、研究ばかりではなく、実際にやっていけないことには見えてこない部分もあると思いますので、保護者や地域の方々へも説明をしながら、実際の導入に向けての具体的な動きに繋げていてもらいたいと考えています。

(山内委員)

状況によって、リアル会議と ZOOM 会議を使い分けながら、これまで教育委員会でも清水先生を中心に指導主事の先生方も交えて活発に意見を交わしています。委員会のスケジュールとしては来年度 1 年間を準備期間として令和 4 年度から分離型の小中一貫校の実施を進めていこうとしています。今年度は現場を良くご存じの清水先生に来ていただいたことにより小中一貫教育に関する様々な問題点やアイデアを共有しながら、とても良い話し合いができています。渡辺委員が言われたとおり、今年度は理念や仕組みについて固めているところですが、同時にこれらの取組みについても外部へ情報発信をしていかなければならないことだと思います。村田町長がおっしゃるようなところからということでは、少し前から英語の授業について、学校間での乗り入れを行っています。また小中一貫教育のメリットについては学びの継続性や子どもの心のケアの継続、その他に 9 年間一緒にいるということで生まれてくるものが大きいとされています。これは同じ施設にいないとできないというものばかりではなく、分離型でもできることはあると思います。例えば学校間で児童生徒の交流の機会を沢山つくる、専門性を持った中学校の先生が小学校へ教えに行くといったことです。分離型の小中一貫校が始まればこのようなことが少しずつ行われることになると思います。ただ、小中一貫校を進めていく上で本質的な課題はこれまでも何度も話題になっていますが、中学校の先生が小学校へ乗り入れるとなれば、その間の中学校の授業をどうするのか、児童生徒の交流のため遠距離移動をさせるのであれば、バスの手配をどうするのかといった問題がでてくることになり、これらの課題を解決するにはどうしても財政的な問題に行き着くように思います。

(町長)

山内委員からいくつかの課題となることを挙げていただきました。ここで学校には折角、ICT が一気に導入されるわけですから、これらを使えば解決できる課

題もあるのではないかと思います。また、子どものためにより良い環境づくりを進めていくために、小中一貫教育を進めていくわけですから、その視点に立って今後もより一層研究を進めていっていただきたいと思います。また、今年度はコロナの影響もあり、なかなか外部に向かって情報を発信するということが難しい状況でしたが、来年度からはまた機会を捉えて情報発信もしていただき、まわりの理解も得ながら進めていっていただきたいと考えています。

(山内委員)

町長に一色小学校の単級問題についてお聞きしたいと思います。教育委員会議では、一色小学校の単級については問題意識を持って、小中一貫教育に関連して話し合いを進めてきたわけですが、問題意識を持つ一方で二宮小学校の保護者の方の「許されれば一色小学校へ通わせなかった」という単級の良さを推す声もあります。村田町長は一色小学校の単級についてどのような認識をお持ちでしょうか？

(町長)

もちろん、単級にはメリットとデメリットがあるという認識です。一色小学校が単級になってしまう直前には、それを心配する声もあった一方でいざ単級になってからは、その良さを認める声を私自身も聞いています。ただ、メリット、デメリットがある中で一色小学校のことをいえば現実的に急に単級が4クラス、5クラスになるというわけではなく、少人数を2クラスにするといった方向になるのかなという状況になるのかなと思います。そういった中で考えるとやはり複数学級にした方が良くと思いますし、小中一貫教育と一緒にスケジュール感を持って進めていくべき問題だという考えです。

(野谷委員)

今は単級をどう解決するかということについて話し合われていますが、教育委員会からいただいた一色小学校の今後のクラスの人数の推移をみると1クラスあたり20人台で推移をしていくようです。2クラスにするには他の学区から15人程度の方々に来ていただく必要がある、となると学校自体にもよほどの魅力がないといけないと思いますし、学校だけでは現実的には厳しいと思います。一色小学校区には再生協議会など地域の力がありますし、地域の力を学校の魅

了に繋げていけたら良いなと思います。

(町長)

学校の魅力づくりという点について言及されましたが、私自身は 5 校でのコミュニティ・スクールが始まって、この小さい町の中にもそれぞれの学校の魅力というものが既にあるのではないかと思いますし、そのことを活かしながらさらに学校の魅力づくりにつながればなと思います。

(教育長)

一色小学校の単級について意見交換をしてきましたが、今、町長が言われたとおり、私も 5 校それぞれの魅力というものがあると思います。またそのことをもっと積極的に情報発信していけたら良いと思います。過去、私は 5 校がそれぞれバラバラな状態であると感じ、もっとまとめられないかという趣旨の発言を公の場でもしたことがありました。今思えば、それは各学校がそれぞれ校長先生を先頭に工夫して学校づくりをされていた成果であると理解しています。そこに二宮町教育委員会が一本筋を通して小中一貫教育を推進していく舵取りをしていかなければならないと感じています。

(町長)

一色小学校の現状はプラスとかマイナスとかではなく、これも一つの特色であるという捉え方もあるのではないかと思います。ただ、単級の解消による活性化という点を望む声もあるわけですから、学校がより魅力的になるためであればそれを推進していくことは必要なことだと思います。小中一貫教育というのは町が進めていくものではありませんが、町が単独で進めるものではないし、進めることはできないものです。昨年度の意見交換会で様々な意見をいただいた中で今は 5 校でコミュニティ・スクールも始まり、地域と学校との関わりがあることも踏まえて、まずは 5 校を維持して分離型の小中一貫校を始めるという結論になったわけですから、これは様々な意見を踏まえて導き出された一つの結果なのだと捉えています。

最後に会議全体を通してですが、この会議の最初に新しい生活様式を踏まえて学校の状況を説明してもらいました。新しい生活様式とありますが、子どももそうですが、大人もこれまでどおりとはいかない中でみんながフラストレシ

ョンを持っており、また何をするにも手探りで進めているような状況です。そのよう中で成人式の式典を中止にしましたが、これも一つの大きな決断でした。このことは私や教育委員会も決して忘れてはならないことで、胸に刻んでおかなければならないことだと思います。ただ、主催する側としてはあらゆることを考えて皆様に対して責任を持っているわけです。学校教育もそのような場面が続いていると思いますが、第一には子どもたちの安全を考えて決断をしていくべきで、その影響でこれまでのことができなかったとしても、発想を変えてその代わりに何かできるのか、ということ模索していく段階になっていると思います。これは学校の先生だけではなく、場合によっては子どもたちの意見を聞いたり、私たちも一緒に考えていかなければならないことだと思います。

—15：00 会議終了—